

GRASP-Japan ムカラバ地域活動報告

2008 年

責任者：竹ノ下祐二

2008 年 12 月 23 日

1 2008 年の活動内容

ガボン、ムカラバ国立公園北部に隣接するドゥサラ、ブンゲ、コンジの3つの村には、かつてヨーロッパ資本の伐採会社の基地がおかれ、村人は伐採会社の雇用によって現金収入を得る生活を送っていた。しかし、伐採会社が撤退し、ムカラバが国立公園化された後は、代替経済手段を得られず、村人の生活は退廃している。過去に政府や国際機関がエコツーリズムを導入するための調査を行なったが、アクセスの悪さやインフラの未整備のため、本格的な導入に至っていない。

こうした状況のなかで、地域住民と協調してムカラバのゴリラ、チンパンジーおよび生物多様性の保全を推進してゆくには、村人の自立支援、村人への啓発活動、将来のエコツーリズム導入のためのキャパシティ・ビルディングが不可欠である。とりわけ、村人の自立支援は、将来にわたってかれらと類人猿が平和的に共存してゆくための必須条件といえる。

今年8月、われわれのかねてからのはたらきかけもあり、上記3つの村の住民が主体となって、地域活動推進と自然保護活動、およびエコツーリズムの誘致を主な活動目的とするNPO「ディノンガ」が設立された。そこでわれわれは、ディノンガと協力しつつ、地域の活性化と保護活動を推進してゆくことにした。

本年は、計画していた内容のうち、

- 地域の人々への医療、教育支援
- 地域活動推進のためのコミュニティセンターを設立にむけた、日本人調査隊の建物の拡張

を行なった。

医療支援に関しては、村に駐在する看護師が、われわれの共同研究者であるガボン熱帯生態学研究所 (IRET) の獣医学者と協議し、村で当面必要な医薬品のリストを作成した。リーブルビルで購入し、寄付した。寄付された医薬品は、ディノンガが保管し、必要に応じて村人に購入価格で販売し、購入代金で補充する体制を整えた。実際の状況を観察し、さらに必要な医薬品があれば今後追加で寄付する予定である。

教育支援に関しては、村の小学校の先生と協議し、村の小学校に通う子どもに必要な学用品のリストを作成した。リーブルビルで購入し、寄付した。贈呈式を行ない、単なる援助ではなく、ムカラバの人と自然の共生のためであることを住民に説明、啓発活動の一環とした。

ディノンガの将来計画に、生活必需品の共同購入や村内市場などの地域活動の拠点としてコミュニティセンターの建設がある。これは、われわれの当初計画と合致する。日本人調査隊が拠点とするため建物を建設していたが、その後国立公園内の調査キャンプの機能強化を行なったため、村の拠点はほとんど使用していなかった。そこで、これをディノンガのコミュニティセンターとして供することとした。そのために床にセメントを張るなどの改修を行なった。ここでビデオ上映会などの啓発活動を行なってゆく予定である。

本年は、当初計画のすべてを実施するには至らなかった。来年以降、ディノンガとの協力関係を強化し、計画の残りである国立公園の見回り活動や、地元の農業、漁業の振興事業も行なってゆきたい。



学用品の贈呈式

2 会計報告

日本円

収入		支出	
JMC より入金	1,900,000	ユーロに換金	1,799,601
合計	1,900,000	次年度繰越金	100,399
		合計	1,900,000

ユーロ

収入		支出	
日本円から換金	10,815	セーファーフランに換金	10,800
合計	10,815	次年度繰越金	15
		合計	10,815

セーファーフラン

収入	
セーファーフランから換金	7,084,336
合計	7,084,336
支出	
学用品購入費	1,743,400
医薬品購入費	478,525
コミュニティセンター改修費	361,000
コミュニティセンター管理人費	100,000
次年度繰越金	4,401,411
合計	7,084,336